



FINANCIAL SERVICES AGENCY

<https://www.fsa.go.jp/common/recruit>



金融
融
厅

採用案内

経済の心臓を動かす

～金融で未来をデザインしませんか？～



変革期の金融・金融庁

Special Talk



柳瀬 護

総合政策局秘書課長

平成4年大蔵省入省。金融庁監督局銀行第二課課長補佐、同総務課監督企画室長、健全性基準室長などを経て、IMF（国際通貨基金）金融資本市場局シニアエクスパート、財務省国際局為替市場課長、同大臣官房参事官、金融庁監督局銀行第一課長を歴任。令和元年7月より現職。



岡田 大

企画市場局総務課
信用制度参事官

平成5年大蔵省入省。外務省在ドイツ日本国大使館二等書記官、金融庁総務企画局市場課課長補佐などを経て、金融庁総務企画局政策課政策管理官兼広報室長、外務省在アメリカ合衆国日本国大使館参事官、金融庁監督局保険課長を歴任。平成30年7月より現職。



新発田 龍史

監督局銀行第一課長

平成5年大蔵省入省。金融担当副大臣秘書官、金融庁総務企画局市場課課長補佐、同企画課課長補佐などを経て、金融庁総務企画局総務課人事企画室長、同政策課総括企画官、国際協力銀行ロンドン駐在員事務所上席駐在員、財務省主税局主税企画官、金融庁総合政策局組織戦略監理官を歴任。令和元年7月より現職。

Contents

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| P.03 特別対談「変革期の金融・金融庁」 | P.20 Message |
| P.06 金融庁の組織図 | P.21 キャリアパスについて |
| P.07 Measures & Policies | P.22 係長×係員対談 |
| P.08 官房部門 | P.24 課長補佐 |
| P.10 國際部門 | P.26 室長 |
| P.12 企画部門 | P.28 出向 |
| P.14 モニタリング部門（業態別） | P.30 国内・海外留学 |
| P.16 モニタリング部門（業態横断チーム） | P.32 ワークライフバランス |
| P.18 証券取引等監視委員会 | P.33 新入職員にQ&A・研修制度 |
| P.19 公認会計士・監査審査会 | P.34 採用情報 |
| | P.35 採用担当者からのメッセージ |

—国家公務員として就職した平成4、5年から現在までの経済・金融の変化について、3人はどのように感じているのだろうか。

岡田参事官（以下、岡田） 平成4、5年頃は、景気は下降している局面にあったものの、まだ少し楽観的な感じでしたね。90年代後半以降は、日本は大きな金融危機に遭遇して、その後、回復したと思いましたが、2000年代後半にはリーマンショックがありました。リーマンショックの後、少し立ち直ったと思いましたが、東日本大震災が起きました。これまで、各局面では最善を尽くしてきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、現在の経済・金融は大きな課題に直面しています。自分としても公務に携わっている間に、少しでも前に進めたいですね。



新発田課長（以下、新発田） 我々が経験した危機というのは、今は新型コロナウイルス感染症で、10年ほど前はリーマンショックで、さらに10年ほど前は日本の金融危機がありました。最初の頃は「100年に一度の危機」と言っていましたが、そのような危機が10年に一度、毎回違う角度から起きているような状況です。我々も過去の経験を踏まえて制度の整備をしたり、足りなかった点を反省したりする必要がありますが、それ以上に、先を見て対応していく必要があると思っています。

柳瀬課長（以下、柳瀬） 我々が就職した頃は、それまでの10年～20年が続くのだろうという感覚が無自覚的にあった気がしますが、特にここ10年～15年は変化が非常にダイナミックになっています。将来は全然思ってもいなかった方向に変わり得るし、経済・社会全体の変化を踏まえての金融の位置づけや、金融に対して、行政としてどのようにアプローチしていくのかを考えねばなりません。



ないので、変化にどんどん合わせていかなければなりません。うまくいかない場合には、思い切って方向転換する勇気も必要だと思います。

柳瀬 そもそも金融は何だったのかを考えてみると、銀行・証券会社・保険会社といった形そのものではないですよね。世の中が変化しても変わらないのは、「人のために役立つ金融」という本質だと思います。人のために役立つ金融を維持・発展させるために、行政は何ができるのだろうかと常に問いかけ、柔軟に対応する姿勢が必要なのではないかと、個人的には思っています。



すし、データには表れない実態を把握するために、現場に飛び込んでいく好奇心や行動力も必要だと思います。

岡田 金融は単にお金の流れということではなく、その裏か表には必ず実体経済の活動があります。経済・社会が急速に変化する中、デジタライゼーション等を通じてどのようにプラスの変革を起こしていくかということが、経済・社会全体の課題だと思います。日本全国にある金融機関を通じて、いかにプラスの変革を起こしていくかという意味では、金融庁の役割は大きいのではないかでしょうか。

新発田 誤解している人もいる感じですが、我々は金融のプロではなくて、金融行政のプロです。政策を実現して世の中を変えること、国民の皆さんのために働くことが行政官の本分だと思いますので、それに必要なスキルは本当に山ほどあると思います。その中でもえて1つ選ぶとすれば、「共感力」でしょうか。いい政策を作っても、論理だけでは人は動かないということがあります。相手に共感し、理解してもらうためのコミュニケーション能力は重要です。

柳瀬 「クールヘッド・ウォームハート」に通ずるのかもしれないですが、謙虚さが大切だと思います。知の技法というものに対して謙虚でないといけないし、相手を説得する上のロジックやデータというものに対しても謙虚でないといけません。同時に、相手への伝え方（コミュニケーション能力）についても謙虚でないといけないし、自分が当然だと思っていること、大事だと思っていることを疑うという意味でも謙虚が必要です。他方、謙虚すぎると自分の立場を決められないので、最後の決断力をどう併せ持つかというバランスだと思います。

世の中が変化しても変わらないのは、「人のために役立つ金融」という本質

岡田 変化がダイナミックになっている理由の1つとして、世界的にプレイヤーの数が増加していることがありますよね。

新発田 お金自体もものすごい勢いで動いていますよね。昔はネットバンキングもなかったわけですが、現在ではHFTのようにミリセコンドというスピードでの取引が行われています。また、資本蓄積によりオイルマネーや中国マネーというようなものがあちらこちらから生まれてきており、どこを見たらよいのかということを日々考えています。

柳瀬 各国ともマクロで見るとお金が余っており、国境を越えるお金の流れが非常に大きくなっていますし、それらをどのように見ていくのかという点はますます重要な点になっていくでしょうね。

—3人が考える現在の金融・金融行政の課題は何だろうか。

新発田 世の中はものすごい勢いで動いていますので、世の中の動きに常にアンテナを張り、変化にアジャストする能力が求められていると思います。今は正解が予め存在する世界では

岡田 金融は役に立つと同時に、90年代後半からの金融危機の時を振り返ると、制御を間違えればものすごく暴力的になるものです。金融が国民や世の中に害悪を与えないようにすることが金融庁の根源的な任務だと思います。他方、縛り付ければよいわけではなく、現在も金融庁として取り組んでいますが、様々な可能性に目を向けて、人の役に立つ金融を目指す必要があります。その際に表面的な事実だけを見て政策を考えるのではなくて、データを集めて詳細に分析することに加え、霞が闇を飛び出して現場で何が起きているのかを見て考えることが必要です。待っているだけでは得られる情報が偏るので、自分で色々なところに飛び込んでいくことが大切です。

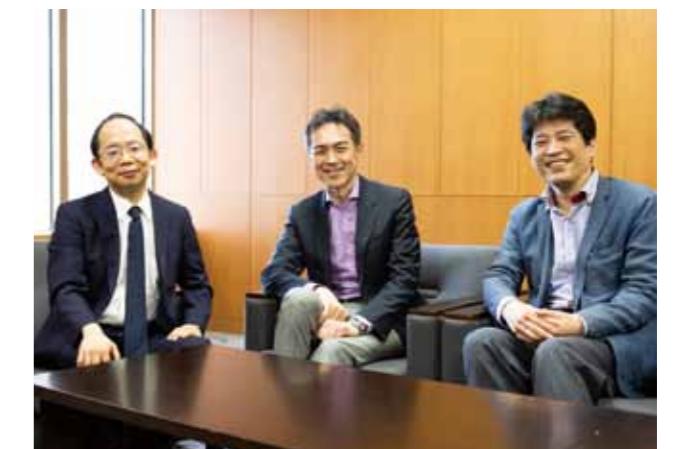
—今後の金融・金融行政の展望について、3人の考え方を聞いてみた。

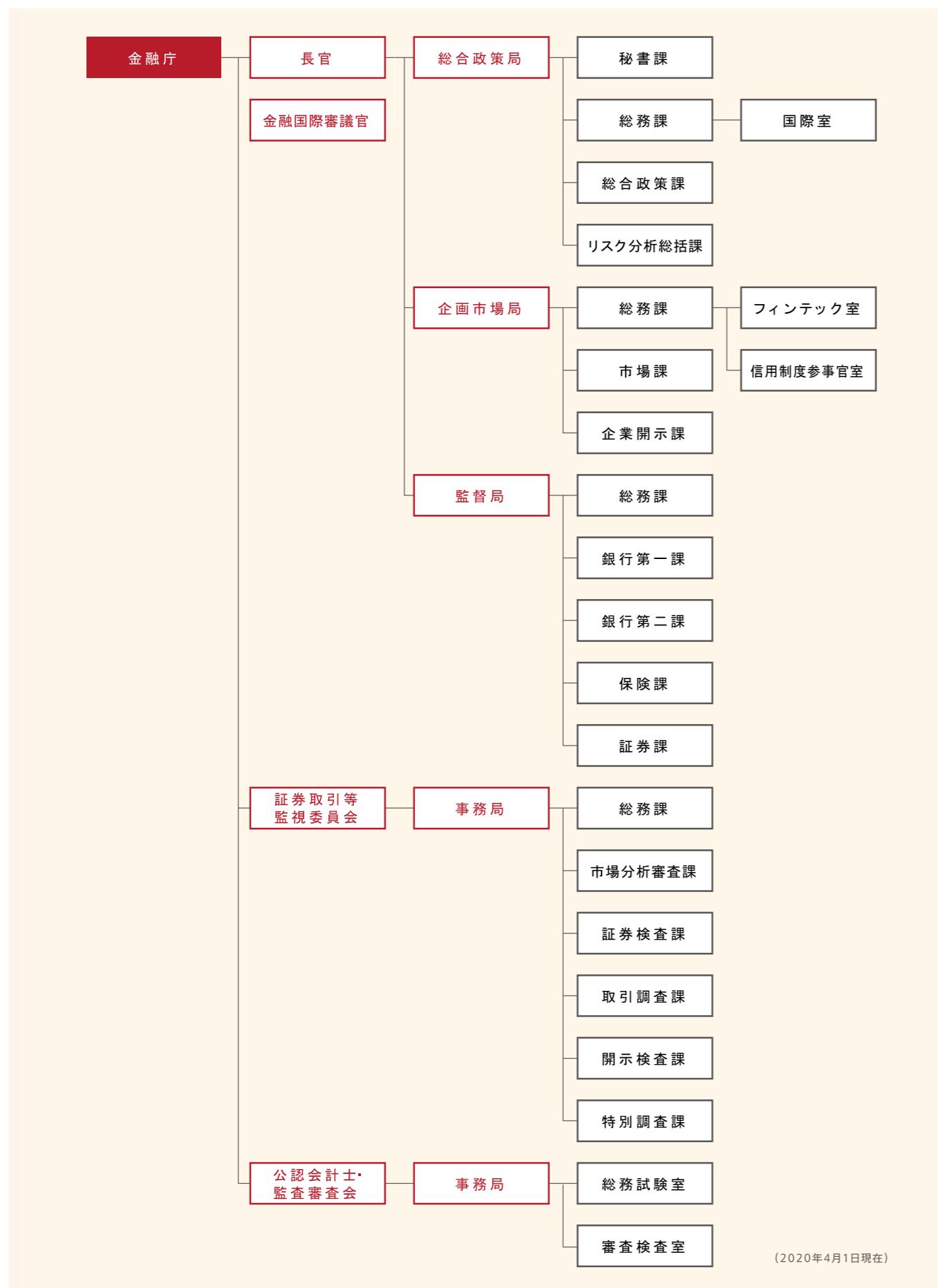
柳瀬 色んな世の中の動きがありますが、個人的にはマクロで見た貯蓄超過の進展と人口減少に注目しています。金融というものがI（投資）とS（貯蓄）を結びつけるものだとすると、Iが減ってSが増えしていく中での金融のあり方やリスクというのは重要なテーマです。さらに、デジタライゼーションの進展等によって、IとSの

新発田 「金融は衰退産業」だと、「銀行員は要らなくなる」だとか、そういうことを聞くことが増えました。金融が大きく変化しているのは事実だと思いますが、新型コロナウイルスの影響で多くの個人・企業がお金を必要としていることからもわかるように、金融サービスはいつの時代も必要不可欠なものです。ただその提供の仕方というのは、銀行という箱があって、窓口で銀行員に会うことには限らないわけです。「自分がこうなりたい」という夢を聞き出した上で、その実現に必要な手助けをするのが金融サービスの扱い手に本来必要な能力だとすれば、そういうことをできない人間はデジタルに置き換えればよいという議論なのだと思います。こうした中で、「金融」や「銀行」の既成概念がおそらく変わっていくのだと思っていて、5年後や10年後には「金融庁」という名前や「銀行第一課」という名前も「金融」や「銀行」という言葉を冠しないようになるのかもしれないな、というぐらいの気持ちでいたらいいのではないかと思います。

—最後に、金融庁職員に求められるスキルは何だろうか。

岡田 役所は思想家の集団ではなく、物事を実現することが使命なので、細かい調整能力など、ジェネラリストとしての能力はやはり必要だと思います。加えて、先ほども少し触ましたが、一見自明と思われるなどを疑い、データをもとに検証するスキルは重要で





Contents

Measures & Policies

- P.08 官房部門
- P.10 國際部門
- P.12 企画部門
- P.14 モニタリング部門（業態別）
- P.16 モニタリング部門（業態横断チーム）
- P.18 証券取引等監視委員会
- P.19 公認会計士・監査審査会

官房部門



Mission

官房部門は、金融庁の業務が円滑に遂行されるよう、部局横断的な視点から、組織のマネジメントや全体的な政策決定などの業務にあたっています。

具体的には、予算・機構・定員・人事・システム整備など、中長期的な組織のあり方を考えるとともに、職員1人ひとりが「国益への貢献」を追求し、困難な課題にも主体的に取り組んでいく中で高いパフォーマンスを発揮できるよう、組織の「縁の下の力持ち」としての役割を果たしています。

同時に、金融庁全体の司令塔として、これからの日本の金融のあり方を見据えた金融行政の基本的・総合的な方針を策定するほか、金融行政の各分野に幅広く関係する業務（国会・官邸との連絡調整、広報、市場動向・経済情勢の分析、金融経済教育、金融税制の企画立案など）を行っています。

刻一刻と変化していく金融のフィールドにおいて、的確な行政対応を行うためには、組織としての力を最大限発揮することが重要です。職員1人ひとりの専門性を高めることや、各部局の連携を強化することによって、組織の対応力を高めています。



佐々木 絵里

総合政策局総合政策課 金融税制第一係長
2015年入庁

2015年4月 金融庁入庁（総務企画局総務課）
2016年7月 総務企画局総務課国際室
2017年7月 経済産業省経済産業政策局産業再生課
係長（出向）
2019年7月 総合政策局総合政策課 金融税制第一係長

皆さんや皆さんの周りの方は「投資」をしていますか。「投資」に悪い印象を持つ方もいるかもしれません。

日本の家計金融資産は約1,800兆円を超えてますが、その過半が現預金で保有され、諸外国と比較すると、リスク性資産の割合は低いです。個々人が各々のライフステージ等に応じ、「貯蓄」と「投資」のバランスを取った資産形成を行うことが大切です。家計の安定的な資産形成の支援のため、金融庁では「つみたてNISA」等を導入してきました。「つみたてNISA」は、年間40万円を上限とし、20年間非課税で投資ができる制度です。また、投資対象商品は長期・積

立・分散投資に適した投資信託に絞られており、初心者にも活用しやすくなっています。総合政策課では「つみたてNISA」などの制度設計や、説明会の実施等の普及活動を行っています。2020年3月末時点での「つみたてNISA」の口座数は220万口座となり、年々利用者数は伸びていますが、より多くの方に安定的な資産形成を行っていただけるよう、制度の見直しや普及活動等、取り組んでいるところです。

私は主に税制の見直し全般について、関係者との調整を担っています。苦労も多々ありますが、最終的に金融庁が目指す姿になった時に得られるやりがいは大きなものです。

役所の先輩から、「欧米やそれに倣った近代日本では、技術的課題（technical problems）という、既存の知識や技術を適切に活用することによって解決できる課題に着目してきたが、環境が激変する中で、解を持っている人はいなくなってきており、適応課題（adaptive challenges）という、既存の思考様式を変えて行動を変える必要のある課題への対応がより重要になってきている。」といった話を聞いた。

政府の「成長戦略」や金融庁の行政方針である「実践と方針」等の取りまとめを担う総合政策課が果たすべき役割は、まさにこの適応課題に対応できるように金融庁という組織を動かしていくことだと思った。デジタライゼーションの加速度的な進展や新型コロナウイルス感染症のような危機的状況により経済社会が激変する中で、真に国益に適う施策を講

じていくためには、必要に応じて、目標や課題そのものも再定義し変革する発想と行動力が求められる。

とはいえ、言うは易く行うは難し。言葉では重要性を理解できても、目標設定（金融庁は何がしたいのか・何をすべきなのか）や目標達成に向けた方針、方針に基づく具体的な施策・資源配分等についての認識が組織的に共有できなければ、人も動かなければ物事も進まない。

答えを持っている人がいない課題（5G・量子コンピュータ・AI・ブロックチェーン等の革新的技術を活用した新たな金融サービスがもたらす課題とか）を前にして、どう適応すべきか考え方行動するという容易ならざる仕事、変化の激しい金融を所管する金融庁ではそうした仕事が少くないため、クリエイティブな仕事に飢えている方には大変お勧めだ、と個人的には思っている。

高岡 文訓

総合政策局総合政策課 課長補佐
2007年入庁

2007年4月 金融庁入庁（総務企画局総務課国際室）
2009年7月 内閣官房郵政民営化推進室
2011年7月 総務企画局政策課企画第一係長
2012年7月 総務企画局市場課市場機能強化室係長

2013年7月 在ドバイ総領事館領事（出向）
2016年7月 財務省主税局参事官補佐（出向）
2018年7月 副大臣秘書官
2019年9月 総合政策局総合政策課課長補佐



国際部門



Mission

国際部門は、金融庁における対国際社会の顔として、日々情報収集・意見発信を行っています。具体的な業務内容は以下の2つに大別されます。

金融規制・監督についての国際的議論への貢献

銀行・証券・保険等、業態別に監督当局が細分化される国も多い中、日本の金融庁はあらゆる業態を監督する当局として専門的知見を集約しており、課題を俯瞰した上で幅広い観点から議論できる強みを持っています。また、議長職など重要なポストを複数獲得しています。こうした強みを活かし、国際交渉に際して議論を主導し、グローバルな金融の安定と経済の持続的成長の両立に貢献しています。特に、近年では、G20における主要課題として、金融技術革新への対応等、先進的な議題を掲げ、成果文書提出に繋げました。

海外当局等とのネットワーク強化

金融機関の活動がグローバル化し、海外当局等との連携が益々重要となる中、綿密なコミュニケーションを通じ、その関係構築・深化に努めています。また、成長著しいアジアを中心とした新興国等に金融インフラ整備支援等を行い、各国の金融機能の強化に貢献することで、本邦企業や金融機関の海外におけるビジネスを支えています。



吾郷 慎之介

総合政策局総務課国際室
2016年入庁

2016年4月 金融庁入庁
(公認会計士・監査審査会事務局総務試験室)
2018年7月 総合政策局総務課国際室

世界各国の証券監督当局から構成される証券監督者国際機構(IOSCO)を担当しております。2019年10月、金融庁は、IOSCOの部会であり、金融庁幹部が議長を務めるアジア太平洋地域委員会(APRC)の年次会合の開催担当となりました。議長国・開催国として成果を出せるよう、私の所属するチームでは、会合をアレンジするという重要な役割を担いました。具体的には、国内の様々な関係者と連携し、会合参加者が快適に参加できるよう手配を行ったほか、外国当局とは、議題の設定や会合資料の作成などに取り組みました。

事前の調整には苦労する場面もあ

りましたが、滞りなく無事に会合を終えた際には、チーム一丸となって対応したその結束力や達成感を強く感じました。上記以外にも、国際室では、若手のうちから国際会議に参加できるなど、やりがいを感じられる職場であると思います。私自身におきましても、日本が議長国を務めていた2019年のG20において、首脳会合等に参加する機会を得、会合調整業務というものについて様々なことを学びました。その結果、2019年10月のAPRC東京会合の開催に活かすことができたと考えております。意欲溢れる皆さんと金融庁でお会いできるのを楽しみにしております。

国際部門の保険セクションでは、主に、保険監督者国際機構(IAIS)が設定する保険分野の国際基準に関する交渉を担当しています。IAISでは国際的な保険グループに適用される国際資本基準(ICS)を開発中ですが、世界有数の規模の日本の保険市場では国際的な保険グループが様々なビジネスを展開しているため、ICSに関する交渉は、日本の保険市場と保険契約者に影響を与える、特に重要な業務となっています。ICSは、世界金融危機後、IAISが2013年から開発を開始した一大プロジェクトであり、各国の監督当局間の共通言語として機能することが期待されています。2013年当時、

私はIAISに出向しており、各国代表がICSについて激論を交わしていたのを鮮明に覚えています。度重なる交渉の結果、IAISは、2019年11月に、モニタリング期間中(2020年から5年間)にICSの設計や影響を検証した後にICSを各国において導入するという合意に達し、モニタリング期間のためのICS(ICS Version 2.0)を公表しましたが、今回は金融庁の立場からその交渉と合意の場面に同席することができました。金融庁では、国内外のそれぞれの現場で施策に深く関わることのできる機会に溢れています。金融の世界に関心のある方は、ぜひ金融庁のドアを叩いてみてください。

齊藤 剛

総合政策局総務課国際室 国際保険規制調整官
2004年入庁

2004年4月 金融庁入庁(監督局総務課)	2011年7月 監督局総務課監督企画室 課長補佐 兼 主任金融情報分析官
2005年7月 監督局総務課信用機関対応室	2012年7月 関東財務局理財部金融監督第一課 上席調査官(出向)
2006年7月 総務企画室総務課国際室 国際機構係長 兼 国際企画係長	2013年7月 保険監督者国際機構(IAIS)(出向)
2007年7月 証券取引等監視委員会事務局総務課 総括係長	2017年8月 ミャンマー財務省(出向)
2008年6月 米・モントレー国際大学(留学)	2019年7月 総合政策局総務課国際室国際保険規制調整官
2010年7月 監督局総務課監督企画室 課長補佐	



企画部門



Mission

企画部門は、日夜、法令をはじめとした金融制度の創設・改良を追求しています。

金融制度というと、銀行法や保険業法、金融商品取引法といった、金融機関の業務を律する法律がまず思い浮かぶのではないかでしょうか。これらは、金融機関の業務の適切性を確保することで金融サービスの利用者の保護を図るものであり、検査・監督を含む金融庁業務の根幹を成すものです。

同様に、金融市場の機能や魅力の向上も重要です。例えば、企業情報開示の充実等を含むコーポレートガバナンス改革や、企業の持続的な成長を促す証券市場構造の改革も、企画部門の主要な政策課題です。

また近年、フィンテック事業者によるモバイル送金の普及や、多様な金融サービスのワンストップでの提供を求める動きなど、金融サービスは急速に変容しています。企画部門ではこの潮流に対応するべく、資金決済や金融サービス仲介に関する新たな制度の創設等を行う法整備にも取り組んでいます。

あらゆる経済活動に付随する「金融」を所管する金融庁は、刻々と変化するその姿に目を凝らし、あるべき姿と必要な政策を模索し続けなければなりません。

松井 章

企画市場局総務課信用制度参事官室 課長補佐
2012年入庁

2012年4月 金融庁入庁（監督局証券課）
2013年7月 監督局保険課
2014年7月 総務企画局政策課 企画係長
2015年7月 星・シンガポール国立大学
2017年7月 総務企画局総務課国際室
国際銀行第一係長
2018年7月 企画市場局総務課信用制度参事官室 課長補佐

キ ャッシュレス化の進展に伴い、皆さんも日々のお買い物などに交通系 IC カードや〇〇 Pay といったサービスを通じ、いわゆる電子マネーを利用することが当たり前となっていると思います。これらは資金決済法という法律に基づき規制・監督されていますが、この法律は古くは商品券を規制する法律が時代とともに変化してきたものです。情報通信技術が急速に発展し従来では考えられなかったサービスが数多く提供される今日、改めて資金決済法の見直しが求められています。私は企画部門においてこの見直しの作業に携わっていますが、望ましい制度の

あり方を検討するには、サービスを提供する事業者の実態や利用者のニーズのみならず、サービスを支える技術や銀行等の伝統的金融機関に関する規制との整合性、国際的な潮流等、非常に多くの点に留意しなければなりません。見直しに向けた作業は決して容易なものではありませんが、上司や同僚、事業者や有識者の方々と日々議論を深め、将来を見据えた制度のあり方を検討することにはやりがいを感じています。日々刻々と変化するこれからの「金融」について、皆さんと一緒に考えいくことを楽しみにしています。

企 業開示課は、①市場において投資家から資金調達しようとす る上場企業による情報開示に関する制度の企画立案、②中長期的な企業価値の向上を目指すコーポレートガバナンス改革に関する取組み、③金融資本市場を支えるゲートキーパーとしての役割が期待される公認会計士・監査法人に関する制度の企画立案、などを業務としています。技術革新の進展、社会・環境問題への関心の高まりなど、上場企業や監査法人を取り巻く環境は大きく変革する中で、それぞれが直面する課題は、急速に複雑化してきました。新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて、将来にわたる不確実性が更高に高まるもとで、制度、組織、社会の在り方も柔構造化していく仕組みを考えていかなければなりません。

國島 佳恵

企画市場局企業開示課開示業務室 課長補佐
2008年入庁

2008年4月 金融庁入庁（監督局総務課）
2009年7月 ↄ 金融会社室企画調整係長
2010年7月 近畿財務局理財部金融証券検査官（出向）
2011年7月 総務企画局総務課総括主査
2013年3月 ↄ 兼人事企画係長 兼研修企画係長
2013年7月 総務企画局総務課国際証券第二係長

そのツールは、法改正、コーポレートガバナンス・コードなどのソフトロー、企業情報の開示の好事例集、関係者で対応のあり方を検討する会など、様々です。直近は、新型コロナウイルス感染症の影響が、企業決算等の現場に与える実務上の課題を、企業、投資家、取引所、監査法人、海外当局などと、毎週電話会議により共有し、対応していくという取組みを行いました。金融庁では、こうした多くの関係者から発せられる多様な意見を真摯に受け止め、金融資本市場のあるべき姿に向けた政策を考える醍醐味があります。金融を通じて、この国のよりよい姿を考えていく、そんな仕事に興味がある方は、ぜひ金融庁にお越しください。お待ちしております。



モニタリング部門 (業態別)



Mission

業態別のモニタリング部門は、業務範囲の「広さ」と「深さ」が大きな特徴です。

【銀行】グローバルに展開するメガバンクから地域に密着した地域金融機関まで、規模・特性に応じリスクに合わせたモニタリングをしています。リスクの特定においては、内外経済・市場動向を分析し、金融システムや個々の金融機関にどう影響するのか、先を読みながら分析します。その上で、予防的な対応も含め金融機関と対話して対応を促したり、許認可や行政対応等を行っています。

【証券】証券市場は社会における重要な金融機能を多くの人に提供する場です。市場の仲介者であるグローバルに活動する大手証券会社、ネット系証券会社及び投資運用業者など多種多様なプレーヤーに対するモニタリングを通じて、投資者が安心して投資を行える環境を保つことにより、資本市場の健全な発展及び国民経済の持続的な成長への貢献を果たすことを目指しています。

【保険】生命保険や損害保険は、もしものときに備えるものです。そのためには、保険商品の設計、保険金の支払いや保険の販売が適切に行われているかに加え、保険会社の財務状況の健全性が大事であり、日々モニタリングしています。近年は、AI・ビッグデータを活用した新しい保険の動向なども注視しています。

そのほかにも、フィンテックの進展に伴い、電子決済等代行業者や暗号資産交換業者等、新たな業態も増えてきているほか、既存の業態のビジネスモデルが多様化している中、イノベーションの促進と利用者保護の両立を目指したモニタリングを行っています。

金融庁と地域金融機関の関係と
言われてどんなイメージを持ちますか?強面の検査官が金融機関職員に対して厳しく指示するイメージでしょうか?金融庁と地域金融機関の関係は、指示する・される、という側面もありますが、私たちはこの関係性を変えようとしています。地域金融機関を取り巻く経営環境は、今般の新型コロナウイルス感染症の影響はもとより、低金利環境の継続や人口減少等による構造的な問題、デジタライゼーションの台頭による新たな競争の進展など、厳しい状況です。しかし、地域経済活性化のキープレイヤーは、地域金融機関に他なりません。地域金融機関の顧客である地域企業が事業を前向きに展開するため、顧客の課題を現場の金融機関職員が吸い上げて、金融庁と地域金融機関の間で、顧客の課題解決に向けた対話ができる関係を構築する必要があります。各財務局では、階層別(顧客に近い

営業店、本部、経営陣)の対話を実施しており、私は、ファクトに基づく論点整理、仮説構築を通じて財務局の取組みを支援しています。加えて、地域金融機関の持続可能なビジネスモデル構築に向けて、多様な関係者が議論する「Regional Banking Summit(Re:ing/SUM)」も企画運営しています。金融庁と地域金融機関の関係が変化することで、地域金融機関と顧客の間でも、「心理的安全性」が確保された対話により新たな関係が構築され、顧客の課題を解決する。それは簡単なことではないでしょう。しかし、私たちが起点となり、対話を始めてることで、指示の連鎖(「chain of command」)から対話の連鎖(「chain of dialogue」)を生み出し、現場の金融機関職員による顧客との「共通価値の創造」を後押しできると考えています。

あなたも金融庁の行政官として、対話の起点になってみませんか?

川口 英輔

監督局銀行第二課地域金融企画室 地域生産性向上支援調査官
2007年入庁

2007年4月 金融庁入庁(検査局総務課調査室)
2009年7月 検査局総務課企画情報分析室
2010年7月 総務企画局企画課法務室
2011年7月 総務企画局企画課信用制度参事官室
2012年7月 総務企画局企画課保険企画室

2014年7月 東日本大震災事業者再生支援機構(出向)
2017年7月 総務企画局組織戦略監理官室
2018年7月 総合政策局秘書課開発研修室
2019年7月 監督局銀行第二課地域金融企画室
地域生産性向上支援調査官

奥村 愛

監督局銀行第一課銀行 第五係長
2008年入庁

2008年4月 金融庁入庁
(証券取引等監視委員会事務局市場分析審査課)
2010年7月 総務企画局総務課国際室
2011年7月 英国・LSE／シティ大学(留学)
2013年7月 総務企画局総務課国際室国際機構第三係長
2014年7月 日東电工(出向)
2016年11月 監督局銀行第一課室銀行第二係長
2018年7月 監督局銀行第一課銀行第五係長

銀行は、経済社会における重要なインフラ機能を担っており、銀行モニタリングでは、銀行の抱える問題を早期に発見するとともに、問題解決のために必要な取組みを行っています。

銀行第一課は、3メガバンクをはじめとした大手を中心にモニタリングしています。これらの銀行は共通して、低金利環境、人口減少による国内市場の縮小、デジタライゼーションがもたらす異業種との競争等、多くの課題に直面しています。

こうした多くの課題に立ち向かうため、銀行は伝統的な預金・貸出・決済業務だけでなく、最近では、制度整備の進展を背景に、情報銀行のような

データを利活用したビジネスや、フィンテックの技術を活用した業務の高度化・顧客利便の向上などにも活発に取り組んでいます。

銀行のビジネスモデルが変容していく中、国内外の銀行業務やリスクの理解のみならず、銀行に対する社会的要請、国際的な金融規制の動向、IT(情報技術)の進展やSDGs(持続可能な開発目標)などにも幅広く関心を持って問題解決を図ることは簡単とは言えません。一方、銀行モニタリングを通じて経済社会のために何ができるかを常に考えることは、ほかではできない大きなやりがいのある仕事だと考えています。



モニタリング部門 (業態横断チーム)



Mission

新たな金融サービスの出現や、経済・社会の変化によって、金融機関が抱えるリスクは近年急速に高度化・複雑化してきています。金融庁では、こうしたリスクを深く、的確に分析するため、弁護士や会計士も含めた専門的なチームをカテゴリー別に編成し、金融システムに潜む重要課題に対処しています。例えば、現在は、金融機関のコンプライアンスやマネー・ローンダーリング、サイバーセキュリティなど、国内外で重要視されているテーマについて、業態横断的なモニタリングを行っています。

さらに、こうしたカテゴリー別のチームに加え、突発的に発生する重要事案に対しても柔軟に対処できるよう、機動チームも併せて設置しています。このチームは、近年では投資用不動産向け融資や、保険商品販売等の事案のモニタリングにあたりました。

実は、こうした業態横断的なチームが編成できるのは、多くの諸外国と異なり、金融庁が銀行・保険・証券といった全ての業態をモニタリングできる「一元監督当局」であるためです。金融を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中、こうした強みは、安定した金融システムを維持するために、ますます重要な役割を果すはずです。

成瀬 芙美江 総合政策局リスク分析総括課 リスク性金融商品販売モニタリングチーム 金融証券検査官
2008年入庁

2008年4月 金融庁入庁（総務企画局企業開示課）
2009年7月 総務企画局企画課信用制度参事官室
2010年7月 監督局総務課信用機関対応室
2012年7月 監督局保険課
2014年7月 検査局総務課
2015年2月 育児休暇
2019年7月 総合政策局リスク分析総括課 リスク性金融商品販売モニタリングチーム 金融証券検査官



日本の家計金融資産は1,800兆円を超えていましたが、その過半が現預金です。米英に比べ、株式や投資信託等の割合が低く、金融資産の伸びも低い水準です。日本全体としての家計は、金融資産を有効に活用できていない状況にあります。金融庁では、家計の安定的な資産形成を図るために、全ての金融機関が顧客本位の業務運営に努め、顧客一人ひとりにふさわしいサービスや商品を提供することが重要であると考えています。私たちのチームは、このような考えに基づき、各金融機関の経営陣や本

部の方、営業活動に携わっている方との対話を通じて、サービス水準の底上げを図ることを主要な業務としています。業務における正解のない課題について、チームのメンバーと相談しつつ、自分で調べ、考え方で解決を目指します。その道のりは平坦ではありませんが、周囲の方々に支えられながら、困難な問題に挑戦でき、自分自身の成長を感じられるものです。

人生100年時代を迎える中、貯蓄から資産形成を進め、国民の充実した人生や豊かな老後を支援する仕事を、皆さんと一緒にしてみませんか。

サイバー攻撃という言葉を聞いたことがあると思いますが、実は気がつかないだけで日々発生しており、皆さんの身近だと例えば決済ができなくなるなどの影響を与えない大きなリスクとなっています。日々進化しているサイバー攻撃に対してはどんなに準備をしていても全てを防御することに限界があります。そこで、サイバー演習と呼ばれる実際に攻撃を受けたと想定したシミュレーションを通じた対応能力の向上が重要になります。

私はDelta Wallという金融機関が参加するサイバー演習の企画・実施業務を担当しています。Delta Wall

は自助・共助・公助の3つの視点(Delta)と防衛(Wall)という、自組織の対応能力向上、組織間連携や官民一体の協力が不可欠というサイバーセキュリティの特徴を表しています。金融機関や関係機関の方々と話をしていると皆で金融分野を守っていこうという気概を感じますし、とてもやりがいがある仕事です。

私も最初は専門的知識がありませんでしたが、庁内の関係者の方々から教わりながら必要な知識を得てきました。専門知識の有無にかかわらず活躍のチャンスはありますので、関心がある方はぜひとも一緒に働いてみませんか。

細沼 学 総合政策局総合政策課 サイバーセキュリティ対策企画調整室
サイバーセキュリティ対策第二係長
2012年入庁

2012年4月 金融庁入庁（監督局総務課健全性基準室）
2014年7月 監督局総務課
2015年7月 証券取引等監視委員会事務局総務課
2017年7月 英国・スタッフオードシャー大学（留学）
2018年7月 総合政策局リスク分析総括課大手銀行モニタリング室
2018年11月 総合政策局総合政策課 サイバーセキュリティ対策企画調整室
2019年7月 総合政策局総合政策課 サイバーセキュリティ対策企画調整室
サイバーセキュリティ対策第二係長





「市場の番人」として。



適正な企業財務情報の開示へ。



上野 有香子

証券取引等監視委員会事務局総務課
2015年入庁

2015年4月 金融庁入庁（総務企画局総務課）
2017年7月 証券取引等監視委員会事務局特別調査課
2019年7月 証券取引等監視委員会事務局総務課

部門全体の任務・業務の紹介 Mission

証券取引等監視委員会は、平成4年に発足して以来、市場の公正性・透明性を確保し、投資者を保護することを使命として、市場監視に取り組んでいます。具体的には、金融商品取引業者等に対するモニタリングを実施しているほか、一般の方々から提供された情報や日常的な市場監視から得られた情報を分析・審査し、その結果を踏まえて、インサイダー取引をはじめとする不公正取引や有価証券報告書の虚偽記載などの調査・検査を行っています。違反行為が認められた場合には、行政処分や課徴金納付命令を求める勧告を行い、特に悪質な事案については、強制調査を含む犯則事件

の調査を行い、必要に応じて検察庁へ刑事訴追を求めるために告発をするなど厳正に対処しています。併せて、証券市場のグローバル化が進む中、当局間の情報交換枠組み等を活用しつつ、クロスボーダー取引による違反行為等の実態解明を行っています。さらに、市場監視に係る国際的な課題についても、証券監督者国際機構（IOSCO）等の多国間の枠組みでの問題提起や共有を行い、国際連携を強化しています。証券取引等監視委員会では、「広く」「早く」「深く」市場監視を行うことを通じて、全ての市場利用者がルールを守り、誰からも信頼され魅力ある資本市場の構築を目指していきます。



井上 恵奈

公認会計士・監査審査会事務局総務試験室 国際調整係
2015年入庁

2015年4月 金融庁入庁
(証券取引等監視委員会事務局証券検査課)
2016年7月 証券取引等監視委員会事務局
市場分析審査課
2017年7月 検査局総務課
2018年7月 財務省大臣官房秘書課（G20財務大臣・
中央銀行総裁会議準備室）(出向)
2019年7月 公認会計士・監査審査会事務局
総務試験室国際調整係

部門全体の任務・業務の紹介 Mission

公認会計士監査の目的は、公認会計士が独立した立場から企業の財務諸表が適正に作成されているかをチェックし、その信頼性を確保することにより、公正な事業活動や投資家等の保護を図ることにあります。公認会計士・監査審査会では、資本市場における公認会計士監査の品質向上及び信頼性確保のため、監査事務所における監査の品質管理の状況を審査し、必要に応じて監査事務所や日本公認会計士協会への立入検査を実施しています。また、会計・監査の専門家として質の高い人材の確保・育成のため、国

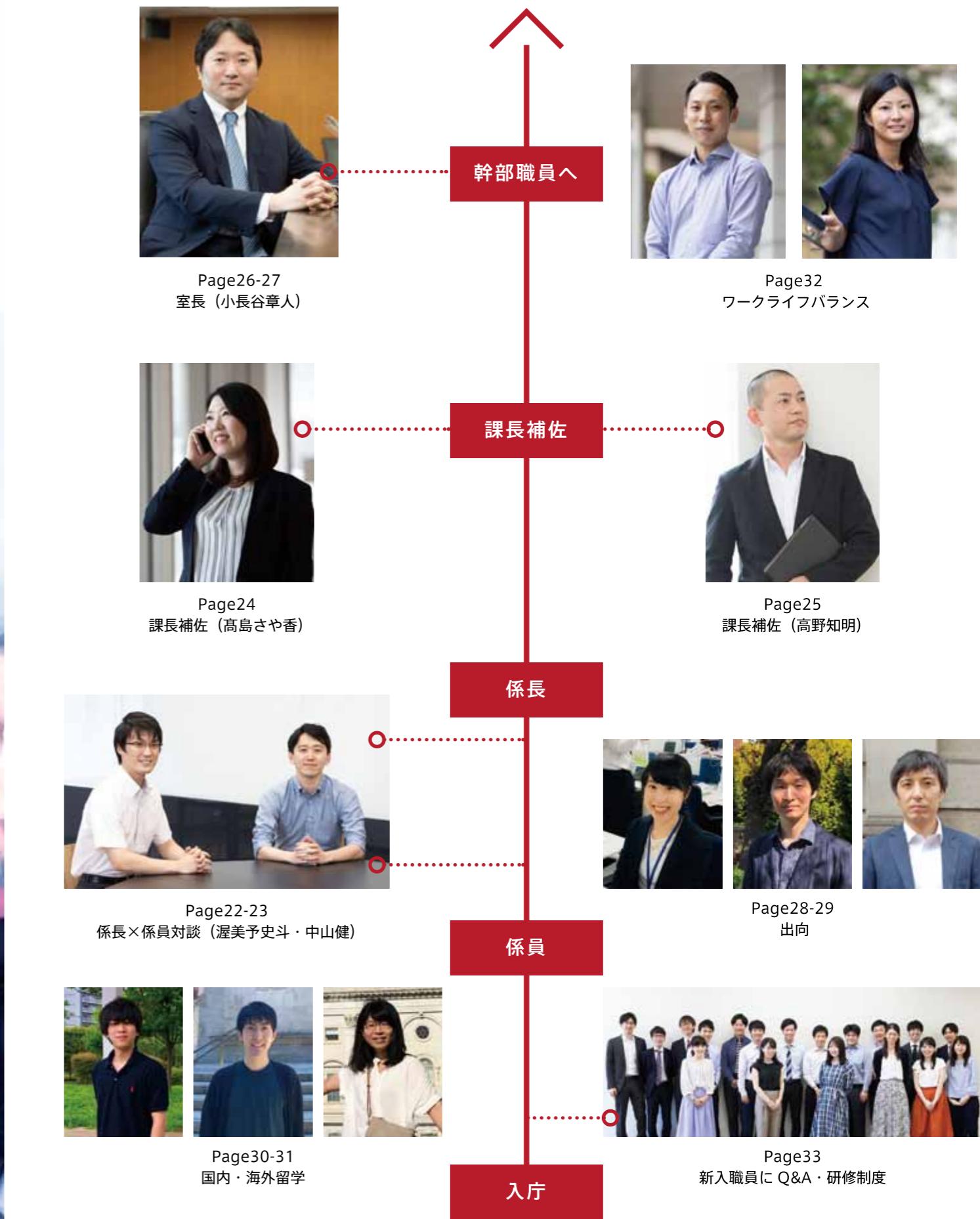
家試験である公認会計士試験に係る試験問題の作成・採点等の事務を実施し、試験の公正かつ円滑な運営に取り組んでいます。上記のほか、近年の企業・投資活動のグローバル化に伴い各国の監査監督当局との協力・連携の重要性がより一層増しているところ、公認会計士・監査審査会は、世界中の監査監督当局により構成される監査監督機関国際フォーラム（IFIAR）に主要メンバーとして積極的に活動に参画し、各国の監査監督当局と意見交換等を行うことにより、国際的な監査品質の確保・向上に努めています。

Message

- P.21 キャリアパスについて
- P.22 係長×係員対談
- P.24 課長補佐
- P.26 室長
- P.28 出向
- P.30 国内・海外留学
- P.32 ワークライフバランス
- P.33 新入職員に Q&A・研修制度
- P.34 採用情報
- P.35 採用担当者からのメッセージ



Contents



係長×係員 対談



PROFILE

渥美 予史斗

2015年入庁
総合政策局リスク分析総括課
マクロ分析室企画係

PROFILE

中山 健

2019年入庁
総合政策局リスク分析総括課
マクロ分析室企画係

—2人の現在の仕事を教えてください。

渥美 マクロ分析室では、金融システムにとってのリスクを早期に特定してアラートを発信するため、日ごろから株式市場などのマーケット動向や世界のニュースに目を配らせてています。自分たちで問題を設定して分析し、その成果が金融行政を動かすことになるので、とてもやりがいがあります。また、多様な経験を持つ出向者等と仕事を進める中で、様々な知識やノウハウを吸収してスキルアップできる点も魅力の1つです。

中山 日夜目まぐるしく動き続けるマーケット動向のモニタリングはさながら金融の最前線に立っているようです。刻々とマーケットが変化し続ける中で、金融システムにとってのリスクもさまざま。リスクの芽どれ1つを取っても新しいものばかりで、毎日が知的

好奇心をくすぐられる日々です。また、マーケット動向の分析はファクト勝負なので、新人でも20近く年が離れた人と対等に議論できることもこの業務ならではの面白さではないでしょうか。

—2人は同じ係の係長・係員という関係ですが、どのように協力して仕事を進めていますか？

渥美 中山君が新人の頃は、調べものやデータ更新をお願いし、自分が資料をまとめることが多かったですが、今は資料作成も任せようになりました。中山君は納得できるまで考える癖がついているので、最初はなかなか納得してもらえず大変なこともあります。自分の理解が曖昧なところに気づいたことがあります。また、最近は知識も増え、言語化もうまくなってきたので、むしろこちらから話し相手になってもらっています（笑）。

中山 こまめに報告、相談するように心がけています。渥美さんにはどんなに忙しくても相談に乗ってくださりとても助かっています。渥美さんからは業務の背景を確認するようアドバイスをもらっています。他課室からの依頼であれば、室内のメンバーと協力して作業するので、依頼内容についての背景事情の確認は必須です。分析資料を作成する際にも背景の確認を怠らなくなったり、分析能力が上がっているのを感じています。

—この1年間で最も印象に残っている仕事は何ですか？

渥美 銀行の与信先のリスクを分析するために実施した、業界

動向調査が印象に残っています。個々の企業の財務諸表を読み解いたり、アナリストにヒアリングを行ったりして分析を進めたのですが、金融の向こうにある日本経済について、手触り感のある分析ができ、視野が広がったように思います。中山君にもヒアリングの準備などを手伝ってもらいましたが、知らないことばかりで、2人で疑問を出し合って一緒に調べたのもよい思い出です。

中山 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う経済・マーケット動向についての幹部報告です。未曾有の実体経済の危機でマーケット環境も急速に悪化していく中、足元の動向を正確にかつ鮮明に伝えられるため、どのようなデータを使えばよいか、普段であれば取り上げないようなデータまでつぶさに調べました。連日朝早くから夜遅くまで、室内のメンバーとああでもない、こうでもないと熱く議論てきたのはとても楽しかったと印象に残っています。

—金融庁では組織改革にも積極的に取り組んでいますが、金融庁での若手の働き方について、どのように感じていますか？

渥美 若手にとってのチャンスが増えているように感じます。「雑用は新人が！」みたいな風潮もないですし、業務の中の頭を使う部分に若手が参加できるのは、金融庁の長所だと思います。自分は毎月のマーケット動向の説明会を担当し、メインでプレゼンをやらせてもらいましたが、課室長級の先輩相手にも話を聞いてもらうことができ、そこから議論に発展することもあったので、いい意味で緊張感を味わいつつ、楽しめてもらいました。

中山 1人ひとりの個性を活かせるような環境が金融庁にはあると感じています。金融そのものの裾野が広いからというのはもちろんですが、若手でも手を挙げれば、「ひとまずやってみよう！」と挑戦させてもらえる寛容さがあるのではないかと思う。私自身は理系の出身で金融についてほとんど学んだことはありませんが、



これまで培ってきたプログラミングの能力を活かしながら周囲の方々と協力して楽しく分析に取り組んでいます。

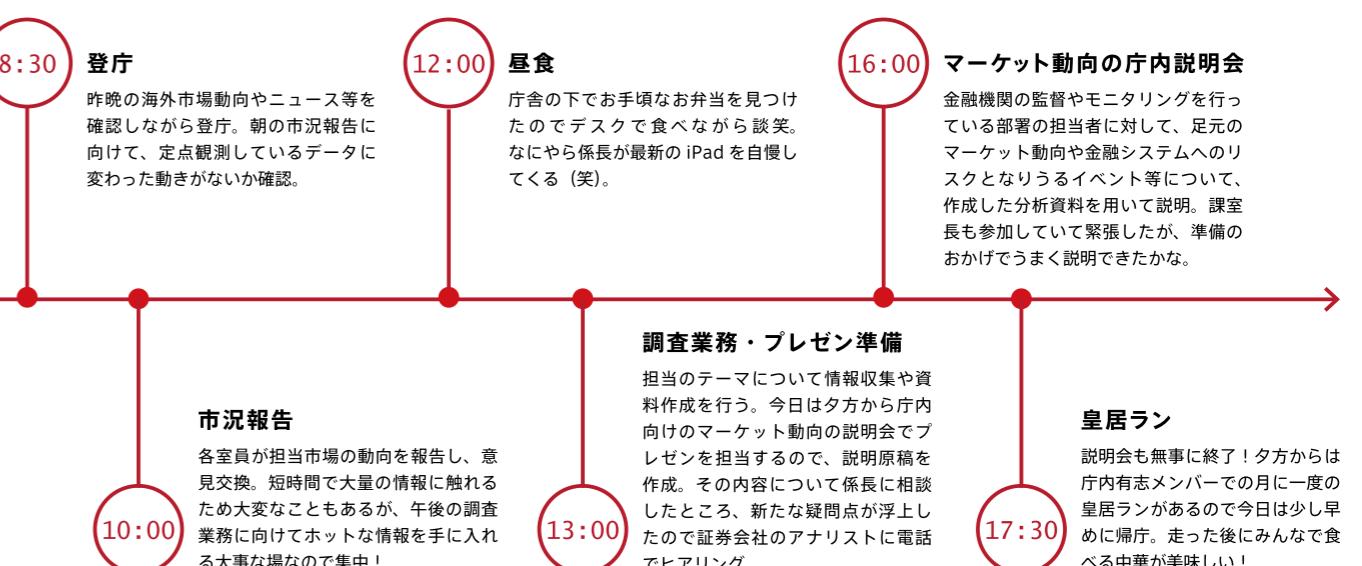
—最後に、学生へのメッセージをお願いします。

渥美 金融庁は、発足から20年強と若く、規模も小さめな組織だからこそ、上下関係に囚われず議論ができる風通しのよさがあると思います。また、金融には少し難しいというイメージをお持ちかもしれません、サポートしてくれる先輩もたくさんいます。若手のうちから自分の頭で考え、答えのない課題に挑戦したいと思う方には魅力的な環境だと思います。

中山 金融庁のミッションの1つは、この国の金融システムを守ること。過去の金融危機を見ても同じものではなく、次に来たる危機も過去とは全く異なるものになるでしょう。予測不能な未来に対しても安定したシステムを作り、危機の発生を未然に防ぐ。こうしたチャレンジにやりがいを感じる人はぜひ金融庁を訪れてみてください。

ある1日のスケジュール

One Day



Message Sayaka Takashima

—現在取り組んでいる仕事について教えてください

アジアを中心とした新興国に対する金融インフラ整備支援に取り組んでいます。現地の金融当局に職員を派遣しての技術支援、会議や面会を通じた金融当局間の協力関係強化、そしてグローバル金融連携センター（GLOPAC）の運営等を行っています。GLOPACでは新興国の金融当局職員を数か月招聘し、日本の金融行政の知見・経験を提供する研修プログラムを実施しています。日々、幅広い国の金融当局者と議論し、また、GLOPAC参加者と対話する中で、様々な課題に直面しつつもそれを乗り越え一早く発展を遂げた日本の金融システムや行政経験の共有が、多くの国から求められている現状を実感します。日本の金融システムの発展にとどまらず、世界の金融システムの構築につながる仕事にやりがいを感じています。

—最も印象に残っている仕事は何ですか？

金融庁入庁後、近畿財務局や厚生労働省での勤務、シンガポールへの派遣を含め、本当に幅広い業務に携わることができました。その中で、2008年世界金融危機への対応や大企業の不正会計事案の処理をはじめ、社会的インパクトの大きな仕事に常に携わってきたことから、最も印象に残っている仕事を1つ選ぶのは非常に難しいというのが正直なところです。そうした中、敢えて皆さんに紹介するとすれば、平成18年の金融商品取引法の大改正でしょうか。私は、学生時代、法律を学ぶ中で、現実社会と法のギャップを埋め、よりよい金融制度を構築する仕事をしたいと考え金融庁に入庁しました。入庁1年目にしてその思いが叶い、法令の条文等を起案したり、法改正の大きなダイナミズムを体験できたことは私の公務員人生の礎となっています。

—学生の皆さんにメッセージをお願いします

金融庁というと専門的というイメージを持たれている方が多いのではないかでしょうか。しかし「金融」は世界中の森羅万象の影響を受け、またこれに影響を与えるもの。したがって、金融という分野をベースに、日本経済の未来を切り開いていくという金融庁の仕事は、決して金融の専門知識のみで遂行できるものではありません。むしろ幅広い知識・視野・経験が求められる職場であり、終わることのない勉強の毎日です。ぜひ、皆さんも「知の泉」に身を置き、ともに刺激的な日々を過ごしてみませんか。

主な業務実績

2005年4月 金融庁入庁（総務企画局市場課）	2014年7月 証券取引等監視委員会事務局 開示検査課課長補佐（総括）	2003年4月 金融庁入庁（監督局総務課）	2014年7月 関東財務局理財部（出向）
2006年4月 総務企画局企業開示課		2005年7月 総務企画局総務課国会連絡室	2016年7月 総務企画局政策課総括第二係長
2007年7月 監督局銀行第一課バーゼル2実施係長	2016年7月 副大臣秘書官	2009年7月 ノー主査	2017年7月 監督局総務課協同組織金融室
2008年7月 檢査局総務課企画調整第二係長	2018年7月 シンガポール国立大リー・クアン・ユー公共政策 大学院研究員	2010年7月 監督局証券課総務係長	協同組織金融機能強化第一係長
2009年7月 総務企画局政策課金融税制室税制第一係長		2011年7月 監督局証券課第二種金融商品取引業係長	2018年7月 監督局銀行第二課協同組織金融室課長補佐
2011年7月 近畿財務局理財部金融監督第二課 信用組合監督室上席調査官（出向）	2019年7月 総合政策局総務課国際室国際協力調整官	2012年7月 監督局総務課文書係長	
2012年7月 厚生労働省社会・援護局地域福祉課長補佐（出向）		2013年7月 証券取引等監視委員会事務局証券検査課 審査第二係長	



Message Tomoaki Takano

—現在取り組んでいる仕事について教えてください

現在、地域金融機関の監督をしており、法令に基づき許認可を行ったり、担当する地域金融機関の財務の健全性の確保や収益性の改善に向けてモニタリングを行ったり、5年後・10年後を見据えた持続可能なビジネスモデルであるかを検証し金融機関と対話をを行ったりしています。特に現在は、新型コロナウイルス感染症の影響により事業者等の資金繰りが大変厳しい状況のため、資金繰り支援について金融機関に対し各種要請をしたり、こうした要請が確実に実行されるよう特別ヒアリングを実施するなどしています。このように地域のための金融機関となっているか、さらに、健全性を維持し金融システムの安定が確保できているかを日々確認しています。

—最も印象に残っている仕事は何ですか？

金融庁入庁してから15年以上が経ち、その間色々な業務に携わりました。その中には社会的にも影響がある業務にも携わらせていただきました。新聞や国会等で取り上げられたのでそのときはやはり大変で、何度も挫折しそうになりました。しかし、それを乗り越え、今私がこうして金融庁で仕事を続けられているのは、自分の能力が優れていたのではなく、上司や同僚のおかげです。周囲の助けや協力があったからこそ、いくつもの難題を乗り越えられたと思っています。そのため、印象に残っていることは、どんな仕事というよりも、その時々に一緒に仕事をした仲間です。この仲間が財産となり今日も金融庁で頑張っています。

—学生の皆さんにメッセージをお願いします

新型コロナウイルス感染症に対する様々な対策を通じて地域金融機関の重要性を改めて認識しました。一方、人口減少や少子高齢化により地域金融機関が厳しい状況であることには変わりありません。地域社会に重要な役割を担っている地域金融機関への対応には、金融に興味がある方はもちろんですが、今まで金融とは別のこと興味があった方の新鮮な感覚も必要です。金融に少しでも興味を持った方はぜひ金融庁の扉を叩いてみてください。

国際協力調整官
総合政策局総務課国際室

高島 さや香
二〇〇五年入庁

主な業務実績

2003年4月 金融庁入庁（監督局総務課）	2014年7月 関東財務局理財部（出向）
2005年7月 総務企画局総務課国会連絡室	2016年7月 総務企画局政策課総括第二係長
2009年7月 ノー主査	2017年7月 監督局総務課協同組織金融室
2010年7月 監督局証券課総務係長	協同組織金融機能強化第一係長
2011年7月 監督局証券課第二種金融商品取引業係長	2018年7月 監督局銀行第二課協同組織金融室課長補佐
2012年7月 監督局総務課文書係長	
2013年7月 証券取引等監視委員会事務局証券検査課 審査第二係長	



監督局銀行第一課協同組織金融室

高野 知明
二〇〇三年入庁

Message

Akito Konagaya



2002年4月 金融庁入庁（総務企画局企画課）	2011年7月 総務企画局企業開示課課長補佐
2003年7月 総務企画局信用課信用機構室	2013年7月 総務企画局市場課課長補佐
2004年7月 米国・デューク大学（留学）	2014年7月 総務企画局企業開示課課長補佐（総括）
2006年7月 監督局総務課バーゼル2推進室係長	2015年7月 経済協力開発機構（OECD）（出向）
2008年7月 監督局総務課課長補佐	2018年7月 企画市場局総務課 保険企画室長 兼 信用制度企画室長

18年。堪え性のない私が、よくこれだけの期間、同じ組織で働き続けることができたなと思います。この採用パンフレットに寄稿するにあたり、その理由を考えてみたのですが、以下の3点に集約されるかと思います。

- 一．風通しの良さ。私が入庁した草創期から、役職や年次にかかわらず物を言いやすい空気がありましたし、今は私も管理職として、そのような空気を維持するよう努めています。卑近な例を挙げますと、この採用パンフレットの原稿は、部下の課長補佐・係長・係員から「いまいち学生向きじゃないんだよなー」等々の指摘を食らって、一から書き直しました。
- 一．魅力的な人材。異動する先々で、難局を共に切り開く素晴らしい同僚に恵まれました。「あの局面は痺れたよね」と思い出話をできる仲間が1年ごとに増えていくのは素敵です。
- 一．挑戦し甲斐のあるタフな仕事。18年もやっていると、例示できるネタは複数あるのですが、以下ではそのうち3つを紹介しましょう。

保険企画室長兼信用制度企画室長

企画市場局総務課

小長谷 章人

二〇〇二年
入庁

Story / 01

2017年夏。私はヤンゴン国際空港にあるカフェで、ミャンマー当局の超多忙な高官に何とか時間をもらい、同国のコーポレート・ガバナンス（以下「CG」）を向上させるためのプロジェクトについて提案していました。当時、私はフランスにあるOECDに籍を置き、アジア諸国におけるCG制度の整備支援を担当しており、ミャンマーでのプロジェクトもその一環でした。無事、彼の了解を得て、まずは同国におけるCGの実態把握に着手。20数社の企業を対象にアンケート調査を行うとともに、現地に何度も足を運び、企業や市場関係者から直接話を聞きました。結果、現地に出向中の日本国政府の同僚達による手厚い助力も得て、2018年夏には調査レポートを書き上げることができました。その後に私はOECDでの任期を終えて日本に戻りましたが、後任としてOECDに赴任した同僚が、ミャンマーのCG制度の刷新に漕ぎ着けてくれました。なかなか経験できないスケールの大きな仕事であり、その一端を担えたことを嬉しく思っています。

Story / 02

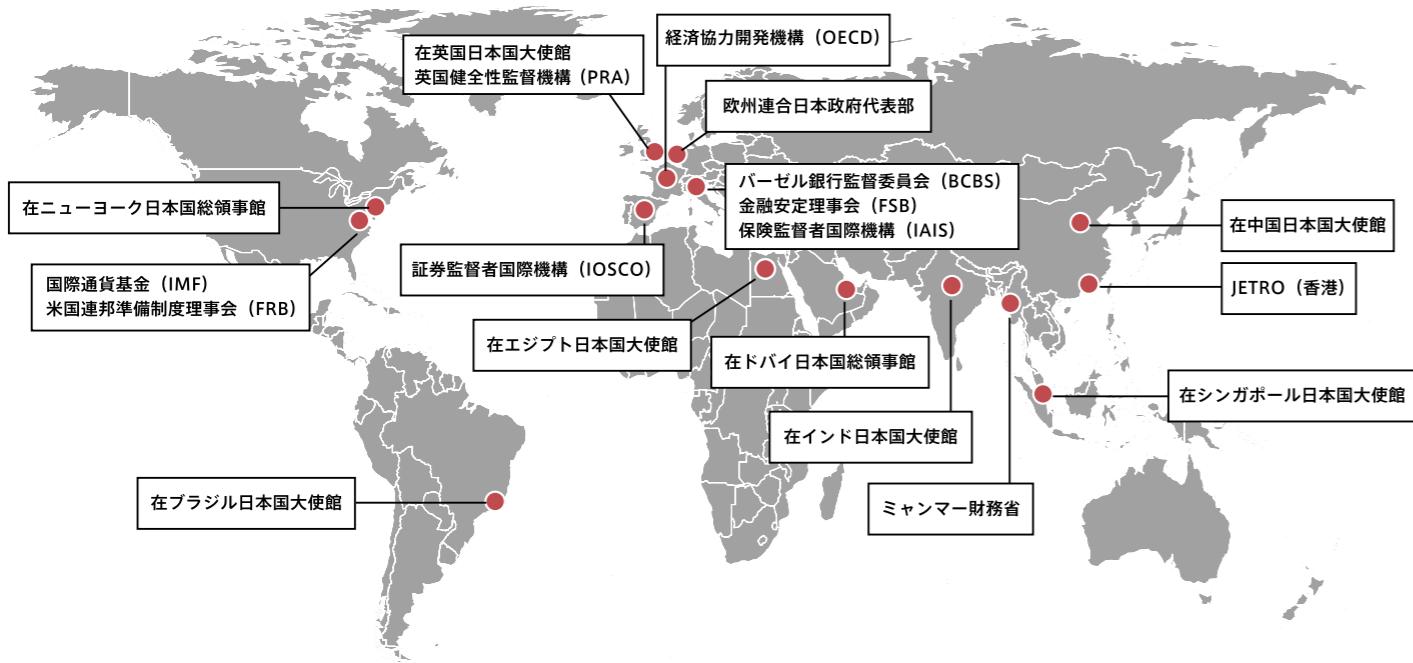
2011年秋。ある上場企業が、バブル崩壊後に抱えた巨額の損失を長年にわたり隠蔽していたことが発覚しました。この事案では企業外部の「金融のプロ」が隠蔽手法を指南していたことが問題視され、粉飾決算を行った企業だけでなく、粉飾に加担した外部者も課徴金の対象とすることができなか、急遽検討に着手しました。課徴金の対象範囲を拡大するとなると、その必要性・合理性を一から組み立てることが求められます。「企業の外部者が損失の隠蔽手法を企業に入れ知恵すると、市場は損なわれるのか？」と問われると、答えはイエスであるように思われますが、「それでは、企業が（隠蔽手法の入れ知恵は受けたものの）粉飾決算を行うことを最終的に思い止まった場合はどうか？その場合であってもなお、企業の外部者は制裁を受けるべきか？」と問われると、段々難しくなってきます。金融商品取引法の第172条の12には、こうした難しい論点が凝縮されており、たまに眺めると、当時の地道な検討の過程を懐かしく思い出します。

Story / 03

2008年秋。世界はサブプライムローン問題を発端とする金融危機の真っ只中にあり、日本では当座の運転資金の確保にも難儀する中小企業が少なくない状況にありました。こうした中、銀行が既存の融資について返済期限の延長などに柔軟に応じることを期待する向きがありましたが、銀行側には、（返済期限を延長するなど）貸出条件を緩和した債権は不良債権に区分される可能性があるため、貸出条件の緩和には応じにくいという事情がありました。こうした状況を開拓するため、「貸出条件を緩和した債権が不良債権に該当するか否かの判断基準」を二度にわたって改定し、銀行が返済期限の延長などに柔軟に応じができる環境を整備しました。この措置が中小企業の資金繰り改善に一定の効果を発揮したことは明らかですが、他方で、「不採算企業を延命しただけでは？」とか「隠れ不良債権を生むのでは？」といった批判があったことも事実です。負の側面がない完璧な施策など存在しないのかもと痛感させられた、課長補佐駆け出し時代でした。

出向について

Message



職員の海外派遣先

金融庁では、グローバルに広がる金融システムの諸課題に対応するため、世界各地の国際機関や在外公館、各国の金融規制当局などに職員を派遣しています。こうして世界中に派遣された職員から、金融に関する国際的な議論の状況や、各国の金融・経済情勢に関するフィードバックを受け、国際交渉や国内の金融制度の企画立案に役立てています。

宮本
孝男

英國健全性監督機構
(PRA)

二〇〇二年
入庁

—現在取り組んでいる仕事について教えてください

英国の大手銀行を監督する15名弱のチームに所属して、信用リスクやビジネスモデルの検証を担当しています。金融市場やマクロ経済の動きを踏まえて銀行の貸出にどのような脆弱性があるか、日々チームメートと意見をぶつけ合いながら銀行のモニタリングを行っています。フィンテック系の新規参入銀行が、既存の大手銀行のビジネスモデルにどのような影響を与えるかといった点についても議論を行っています。

最近は、ブレギットや新型コロナウイルスなど、総合的な政策対応が必要な事象が発生しています。デリバティブ取引や資金調達の面での対応も含めて、リスク分析の専門家と協力して危機対応の政策パッケージをまとめており、世界の動きを肌で感じています。

—出向して知った金融庁の魅力を教えてください

金融庁は、環境の変化を見据えた規制・監督の変革に積極的に取り組んでいます。世界の金融機関が集まるロンドンの当局PRAも金融庁と同じような悩みを抱えており、金融庁で培った知見と技能で解決策を提案して、それがチームや部局の方針に取り入れられることも少なくありません。PRAに着任した当初は気後れしていましたが、働く内に当初の不安は確実な自信へと変わっています。PRAに出向することで、金融庁が先見性を持って課題に取り組んでいること、上司・同僚に揉まれながら仕事をする中で自然と世界への門戸を開いてくれることを実感しました。



竹岡
陽介

日本
銀行

二〇〇七年
入庁

—現在取り組んでいる仕事について教えてください

私は、現在、日本銀行の考査運営課という部署で、銀行や信用金庫に対する立ち入り調査を行う考査の業務に携わっています。考査では、金融機関の経営状態や適切なリスク管理態勢の実態把握を目的に、事前に提出された資料やデータを分析し、立ち入り調査を実施し、課題があれば、改善を促すことになります。金融機関の数だけビジネスモデルがあり、そこに至る背景も異なるため、お互いに納得する答えにたどり着いた時は、大きな達成感が得られます。こうした考査やオフサイト部署のモニタリングは、日本銀行の「最後の貸し手」としての機能や資金決済の円滑化に資するための業務を適切に果たすという観点で、重要な役割を担っており、日々やりがいと緊張感を感じながら業務を行っています。

—出向して知った金融庁の魅力を教えてください

1つ目は、金融の最前線の仕事に携われることです。以前の所属部署では、法改正の検討に際して、最新の金融動向や海外法制の情報をいち早く把握できる環境にあり、これは金融庁ならではの魅力だと思います。また、出向後に金融機関の方々と直接対話する場面が多くありますが、金融庁の制度設計などが金融機関の経営に及ぼす影響を改めて実感しています。2つ目は、人材の多様性です。金融の専門性の高さや環境の変化にいち早く対応するため、様々な背景を持った職員の方が勤務しており、組織全体の活性化や金融以外の素養を身につけることにつながります。皆さんも、自分自身の知見を深めながら、それぞれに強い思いを持った同僚たちと働いてみませんか。



大久保
佑美

東海
財務
局

二〇一五年
入庁

—現在取り組んでいる仕事について教えてください

東海財務局では、金融庁からの事務委任を受け、東海地方の金融機関等の検査・監督を行っております。

私が所属する金融検査部門では、地域金融機関が抱える経営課題に対する取組み状況や、健全性確保のための各種リスクの管理状況等についてモニタリングを行い、必要と認められる際には立入検査を実施することで金融の安定性の確保に努めています。また、各金融機関を取り巻く環境や顧客企業からの評価等の客観的な事実の分析を行い、金融機関と継続的な対話を実施することで、地元経済を支える持続可能なビジネスモデルの構築・実現を後押ししています。

—出向して知った金融庁の魅力を教えてください

金融庁のスケールの大きさを改めて感じています。財務局では地域の特性に応じたきめ細かい対応が必要となる一方で、金融庁では業界の横断的な業務を執り行っているため、圧倒的な情報量を持っています。その情報を基に、目まぐるしく変化する金融環境に対応するための制度設計、法令や規則の改正等の作業に携わることができることは、責任は大きいですがとても貴重な経験だと思います。また、様々なバックグラウンドを持った方が多く在籍しているため、とても刺激になり自身の知見を広げることができるのも魅力の1つだと思います。



国内・海外留学について

Message

金融庁では、国際化・複雑化する課題に行政として対応するため、国内・海外留学制度を通じて、国際感覚を養う機会や高度な専門知識を身につける場を提供しています。幅と変化とスピードに富んだ金融という分野で、「行政のプロフェッショナル」として活躍できるよう、職員1人ひとりの成長を応援しています。

主に修士号を取得しますが、博士号を取得する例もあります。

海外留学

- 金融庁在外派遣制度
- 行政官長期在外研究員制度（人事院）

【留学先】米英を中心とするロースクール、ビジネススクール等

国内留学

- 金融庁専門職大学院派遣制度
- 行政官国内研究員制度（人事院）

【留学先】法科大学院、会計専門職大学院、公共政策大学院等

留学生からのメッセージ



丸山 優貴

早稲田大学

二〇一六年
入庁

—現在学んでいることを教えてください

現在、スマートフォン等の無線通信サービスである5Gなどにも適用されている最先端の無線通信技術を学んでおり、通信の品質や効率をいかに向上させるかを研究しております。データに基づき、定量的に評価を行うことは、金融機関へのモニタリング業務にも通ずるものがあり、無線通信技術の習得以外にも、日々成長を実感しております。

—留学を決意した理由は何ですか

入庁前から留学制度の存在を知っており、理系出身である私は、留学の意思は常に持っていました。さらに近年、金融とITを融合したフィンテックの台頭が著しく、当局職員としては、金融だけでなくITの知識も不可欠となっております。そうした背景のもと、IT人材として成長することで、職場や国に貢献していきたいと考え、留学を決意しました。

—今後挑戦したいことを教えてください

今後は、金融機関のシステムのモニタリング業務や、庁内を含めた行政のネットワークの発展に貢献したいと考えております。また、この先もテクノロジーの発展は私たちの予想を超えてくると考えておりますので、ITの進化に幅広く対応していくような人材になっていければよいと思っております。

—現在学んでいることを教えてください

米国のワシントンD.C.に所在するロースクールで米国の金融規制を勉強しています。米国の首都であることから、金融政策を担当してきた議員や役人の方々から直接経験談を聞く機会も多くあります。詳細な規制の内容を学ぶだけでなく、望ましい金融政策を実現するために行われた様々な試行錯誤や政治的な動きも含めて学ぶことができ刺激を受けています。

—留学を決意した理由は何ですか

以前所属していた部署で、日本の制度改革に向けて海外の制度を調査しましたが、私自身規制の背景にある考え方への理解が足りていないなど感じることがありました。よりよい制度を作っていくためには、比較対象となる海外の制度やその運用への理解を深めていく必要があると考え、留学を決意しました。

—今後挑戦したいことを教えてください

社会構造が複雑化していく中、既存の金融規制の枠組みもアップデートが求められています。私は今後そういった制度の企画立案を担っていきたいと考えています。今の日本が直面している課題は、世界中の国々が同じように悩んでおり、簡単に解決策が見つからないものかもしれませんのが、留学で得た経験も活かしつつ、よりよい金融制度の構築に貢献していきたいです。

山本
ひかる

ジョージタウン大学

二〇一四年
入庁



—現在学んでいることを教えてください

ウォーリック大学の国際政治経済学コースで、政治と経済の相互関係が国際社会においてどのような影響を及ぼすかということについて、幅広く理論や事象を学んでいます。特に、国際機関、各国政府、民間企業が国際金融規制に与える影響力が、金融危機の前後においてどう変化したかに関心があり、研究を行っています。

—留学を決意した理由は何ですか

学部時代に学んだ経済学とは別の観点から金融を捉えることで、より広い視野に立った政策を立案することができると思ったからです。また、世界的な金融センターであることや、EUからの離脱という転換点を迎えることなど、イギリス社会の特色やその変遷を、現地で直接感じてみたいと考えたことも理由の1つです。

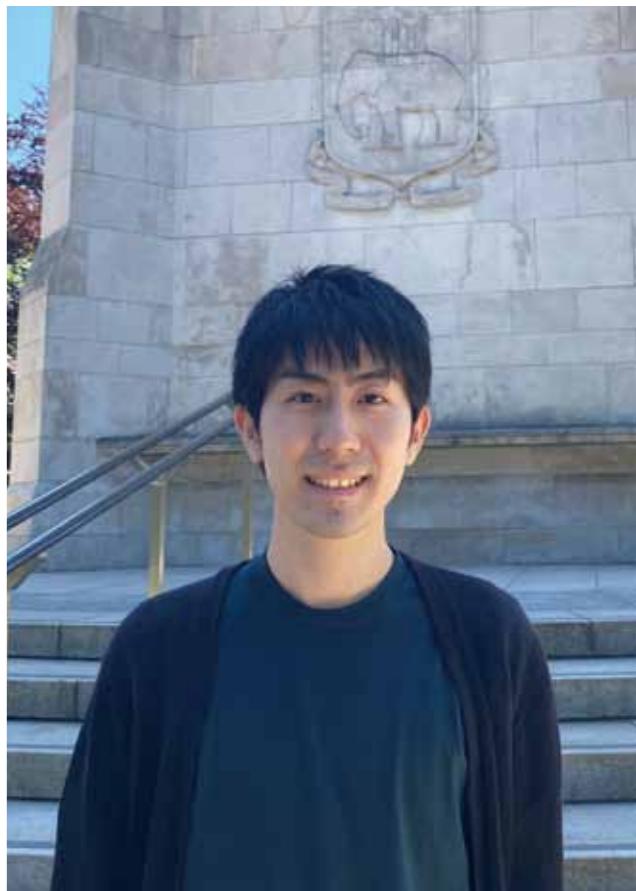
—今後挑戦したいことを教えてください

帰国後は、他国の規制当局者との国際交渉に挑戦したいです。イギリスで学んだ国際政治経済学の理論や、様々な国的学生と議論した経験は、交渉の場において、相手の発言の政治的な背景を理解することや、それを活かしてうまく多国間の合意に達することに、役立つと考えています。

須藤
駿介

ウォーリック大学

二〇一六年
入庁





—現在の金融庁における働き方について

小学生の子どもを2人育てながら働いています。育休復帰後5年間の時短勤務を経て、1年前に9年ぶりにフルタイム勤務に戻りました。学童保育に通う子どもを迎えるため、早出勤務を申請しています。現在は金融機関の監督業務に従事していますが、金融機関からの急な相談や突発事象への対応など、業務時間外に対応しなければならないことも多いため、上司や同僚のフォローなくしては業務を行うことができず、日々感謝しながら仕事をしています。月2回程度テレワークをしており、日頃から出勤しないとできない仕事とテレワークのほうがやりやすい仕事を整理し、効率よく業務を行えるように心がけています。テレワークの日は、通勤時間がなくぶん子どもとの時間をゆっくり取ることができます。



One Day

ある1日のスケジュール

起床。朝食準備や洗濯などの家事。	05:00	14:30
06:00 出勤。電車の中で新聞を読む。今日1日の仕事をイメージして仕事モードに切り替える。		16:00
07:30 登庁。メールチェックや午前中の面談の準備をする。		
09:30 メールの内容などについて、財務局や金融機関に電話して確認。		
10:30 金融機関との面談。対応について係内で検討。		
12:00 景気見を30分に短縮しているため、自席でさつと昼食。		
12:30 午後の勤務開始。この後の面談の準備やメールの返信、電話応対など。		
金融機関との面談。対応について係内で検討。	13:30	21:30

One Day

ある1日のスケジュール

06:00 財務局や金融機関からの照会について法令や参考文献などにらめっこしながら検討。問い合わせの電話も多くかかるので対応。	07:00 朝は子どもに起こされます。起きるまで止まらない強力なスヌーズ機能のおかげで、遅刻知らずです。	08:30 子どもの準備を終え、保育園に向かいます。時間がないので、抱っこ紐、12キロの重みが肩にのしかかります。
07:30 退庁。今日も1日無事に業務を全うできたことにほっとする。保育園時代は子どもの体調不良の連絡が来て早退することがよくあったが、小学生になってからだいぶ減ったなど、感慨に浸る。	09:30 職場に到着。業務を開始します。子どもの送りで体力を消耗し、既にヘトヘトです。	9:30-19:00 総合政策課の総務係として、府内外の様々な依頼について、関係者と連携をしながら、対応します。
10:30 学童保育へお迎え。校庭で遊びたがる子どもをひっぱって帰宅。	12:00 子どもの宿題をみながら夕食準備。どちらもはどちらい…。	19:00 業務に目次が立ち、帰府。20:00前には子どもがお風呂に入るので、一緒にいるため、急いで帰宅します。
12:30 入浴。子どもの翌日の準備を確認。	13:30 入浴。子どもの翌日の準備を確認。	
金融機関との面談。対応について係内で検討。	14:30 入浴。子どもの翌日の準備を確認。	

研修制度について

金融を取り巻く環境が大きく変化していく中で、金融庁の研修制度も時代に対応すべく常にアップデートされています。例えば、新人研修では、自分で考え行動する力や対話力を重点的に養成するカリキュラムを導入しています。また、新人職員同士が相互理解を深め、絆を育むことも重要だと考え、グループワークなど互いに学び合う形式を多く取り入れています。

大学で金融に関連する科目を学んでいない新人職員も多くいるため、彼らが業務面で不安を感じることがないよう、業

務で必要となる専門的な知識やスキルを、基礎から段階的に習得できるような研修体系になっています。

さらに、新人研修に限らず、専門分野（銀行、市場・証券、IT等）ごとに育成担当者や先輩たちが中心となり、オリエンテーションを実施しています。

国民の信頼や期待に応えていくためには、職員個人が金融行政のプロフェッショナルとして能力を高めていくことが不可欠です。金融庁では、職員が主体的に自身のキャリアをデザインし、学び、成長していくことを人事部門が全力で支援しています。

新入職員に Q&A 質問。

Q 金融庁に決めた理由

A1 金融庁は成し遂げるべき使命に誠実に向き合い、その過程で、周囲の人々を大事にするような環境であると感じたから。



Q 職場の雰囲気にについて

A1 柔らかい人柄と熱意を持つ人が多いように感じています。また、チーム単位での活動が意識されているため、職員全員で支えそして助け合ながら仕事をしています。

A2 金融庁では新たな取り組みが日々行われており、良い意味で役所らしくなく、自分の肌にもあってると感じたから。

A3 金融という1つの軸から経済全体に働きかけるスケールの大きさと専門性の高さに魅力を感じたから。

A4 「金融という軸を持って社会全体を俯瞰できる」「財政事情によらない持続可能な政策ツールで社会をデザインする」といった金融庁ならではの魅力に強く惹かれたから。

Q 金融庁を考えている皆さんへ

A1 職業選択はこれから的人生を大きく左右するイベントだと思います。また、学生時代は様々な業界に触れる機会です。色々な人と話し、考え、自分にとって納得できる選択をしてください。

A2 金融は経済の血液と例えられるように、社会や国民生活の向上に深く関係していることを実感しながら業務を行っています。様々な選択肢を検討し、その中で金融庁を選んでいただけたら嬉しい思います。

A3 かつてなく激動する世界の中で、皆さんならどのような未来を思い描ますか。この国、この世界の未来、そして皆さんの思いについて、ぜひ官庁訪問の場でお聞かせください。



求める人材像

金融行政のプロフェッショナルとなるポテンシャル・意欲のある方

- 金融だけでなく、経済・産業や社会全体に対してアンテナを高く張り巡らす「視野の広さ」「好奇心」
- 法律、経済、会計、語学、金融工学……など幅広い分野の知識を吸収する「向上心」
- 自由な発想で最適な政策を立案する「柔軟なアタマ」
- 自らの手で日本を良くし、国民の幸せに貢献したい「気概」「志」

採用実績

年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
総合職 (旧Ⅰ種)	11 (5) 人	15 (7) 人	13 (4) 人	13 (5) 人	15 (5) 人	13 (6) 人
一般職 (旧Ⅱ・Ⅲ種)	25 (12) 人	18 (9) 人	26 (9) 人	22 (9) 人	24 (8) 人	27 (13) 人

勤務地

東京（金融庁本庁）での勤務が中心となります。職務の要請による地方・海外勤務もあります。

■金融庁本庁以外の勤務先（2020年4月1日現在の例）

【国内】

- 各地の財務局：関東財務局、東北財務局、近畿財務局 等
- 他省庁：財務省、厚生労働省、経済産業省、警察庁 等
- 日本銀行・民間企業：日本政策投資銀行、東京証券取引所、NTTデータ、日立製作所、デンソー、東急不動産、経営共創基盤、東京大学 等
- 地方自治体：石巻市、川崎市 等

【海外】

- 国際機関
バーゼル銀行監督委員会（BCBS）、金融安定理事会（FSB）、証券監督者国際機構（IOSCO）、保険監督者国際機構（IAIS）、国際通貨基金（IMF）、経済協力開発機構（OECD）等

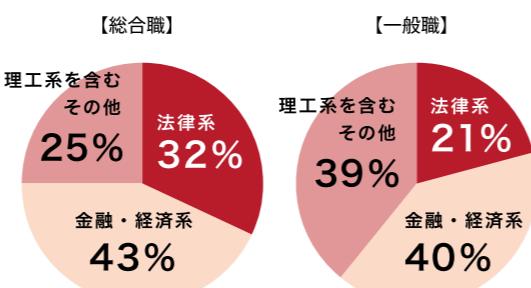
○海外当局・在外公館等

- 米国連邦準備制度理事会（FRB）、英国健全性監督機構（PRA）、在ニューヨーク日本国総領事館、在英國日本国大使館、在ブラジル日本国大使館、在インド日本国大使館、在シンガポール日本国大使館、在中国日本国大使館、在ドバイ日本国総領事館、在エジプト日本国大使館、欧州連合日本政府代表部、ミャンマー財務省、JETRO（香港）等

Q

法律系や理工系など大学（大学院）で金融・経済を学んでこなかった学生でも採用されますか？

直近5年間の新規採用者の出身学部（専攻）は以下の通りです。金融行政には、金融・経済、法律はもちろん、他にも多くの分野の知識が必要です。そのため、金融・経済系や法律系のほか、理工系など多様な専攻分野を持つ方を採用しています。また、官庁訪問に臨むにあたり、金融・経済の専門知識は必要ありませんが、興味・関心は持っていてほしいと考えています。業務に必要な金融・経済の専門知識は、入庁後に実務を通じて身につけることが可能です。しかし、入庁後にこうした専門知識を学ぶ上では、金融・経済に対する興味・関心と、課題のある現状を変えようという想いを持っていることは必要です。官庁訪問の際にも、皆さんが金融・経済についてどういった想いを持っているのか、お聞きすることができます。



Q

業務において英語力は要求されますか？

金融はいまも昔もグローバルですから、もちろん、入庁後の業務においては英語力が要求されることがあります。官庁訪問時、英語力によって足切りを設けることはありませんが、英語力向上に向けた意欲は持っていてほしいと考えています。なお、金融庁は、職員の英語力向上をサポートすべく、充実した海外留学制度や語学研修を有していますので、入庁後継続的に英語力を高めていくことが可能です。

金融庁の魅力は何か。このパンフレットでは、様々な職員がそれぞれの視点で金融庁で働く意義を語っています。皆さんには、就職という人生で最大級のイベントを迎えるに当たり、何を重視し、どのような役人像をイメージしますか？

新型コロナウイルスは働き方、業務の仕方を変えるだけでなく、ビジネスのあり方にも大きな変革を迫っています。不透明な時代だからこそ自分と対話し、やりたいと思うことを意識し、自分の歩む道を注意深く見定めていきたいものです。

金融庁は、大きく変わりつつあります。職員の気付きと主体的行動を大事にし活かすチーム運営。組織の枠を超えたオープンなつながり。多様な人財による多様な働き方の推進。

組織文化の改革は一朝一夕にはいきませんが、組織を上げて取り組んでいます。

また、そうした変革を通じて職員の自律性も刺激され、少しでもワークとライフが対立概念ではなく、仕事が生き生きとした情熱を注ぐ生活の一部にもなればよいと思っています。

国の行政官には、広い視野をもって物事の課題の本質を見抜き、様々なステークホルダーがいる中で課題を解決するための政策をうまく実現していくことが重要な役目となります。そのような国の舵取りと金融、金融庁の働き方に興味をもった方には、ぜひ金融庁の門戸を叩いてほしいと思います。

齊藤 将彦

総合政策局秘書課人事企画室長

2000 年入庁

